第２学年　社会科（地理的分野）学習指導案

学級　　２年１組（男子１７名　女子１９名　計３６名）
指導者　教諭　岡田　拓

１　単元名　　第３章　日本の諸地域　　２節　中国・四国地方

２　単元について

（１）教材観

本単元は、学習指導要領の内容（２）の中項目「ウ　日本の諸地域」の１つであり、人口や都市・村落を中核として、その地域的特色をとらえさせることをねらいとしている。中国・四国地方には、地方中枢都市である広島市を中心として、新幹線の沿線や瀬戸内工業地域が広がる瀬戸内海沿岸に人口が多く集まり、過密地域となっている。その一方で、山陰地方や高知県といった人口の少ない地域もあり、それらの山間部は過疎地域となっている。海に囲まれた四国地方は、長年本州とフェリーでつながっていたが、本州四国連絡橋の開通により人々の生活は大きく変化してきている。このような地理的事象が見られる中国・四国地方を人口や都市・村落を中核として学習することは、少子高齢化が進み、限界集落が日本各地で増加している今日、これからの社会の在り方を考えていく上でも大きな意義があると考える。

（２）生徒観

本学級は、前向きに学習に取り組もうとする生徒が多いが、集中力にやや欠ける生徒もおり、授業の雰囲気にバラツキが見られることがある。社会科に関しては好きな教科であるという生徒が多い。グループ学習でも協力して取り組める。一方で、社会的事象に対して、自分で思考したものを発表する場面では、一部の生徒の発言に頼ってしまう所が見られる。

中国・四国地方に行ったことのある生徒は２名。都道府県の位置と名称の組み合わせを正しく把握していない生徒も１３名いる。各県から連想されるものも、広島県を除けば多く連想できるものはなく、認知度は低い。

（３）指導観

本単元の指導に当たっては、まず、地図や雨温図、統計資料を用いて、中国・四国地方の地理的特色（自然・人口・産業）を大観させる。そして、中国・四国地方における、過密・過疎地域の問題の背景や解決への取り組みを既習事項と関わらせながら追究させる。

本州四国連絡橋の学習を行うことは、中国・四国地方の地理的特色や人口問題を有機的に考察する機会となる。交通網の整備がすすむことは、他地方との結びつきを強めるという利点がある。一方で、大都市への人口流出や地元商店街の衰退など、見方や立場によっては決してよいものといえない影響をもたらすこともある。本時では、グループ学習を取り入れることでより多くの立場の人々に着目させ、社会的事象を多面的・多角的に考察する機会としていきたい。

３　単元の目標

（１）人口や都市・村落を中核として、中国・四国地方の地域的特色について関心を高め、意欲的に追究しようとする。
【社会的事象への関心・意欲・態度】

（２）中国・四国地方の人口や都市・村落における地域の課題について、自然的条件や社会的条件を有機的に関連付けて、多面的・多角的に考察し、自分の言葉で表現することができる。
【社会的な思考・判断・表現】

（３）人口や都市・村落における地域の課題の背景や解決に向けての取り組みについて、様々な資料を関連付けて読み取ることができる。
【資料活用の技能】

（４）中国・四国地方の地域的特色を自然環境や人口、産業、他地域との結び付きなどと関連付けて、大まかにとらえることができる。
【社会的事象についての知識・理解】

4　指導計画

・中国・四国地方の自然・・・・・・・・１時間
・中国・四国地方の人口と産業・・・・１時間
・都市の役割とその課題・・・・・・・・１時間
・高齢化の進む農村と町おこし・・・・１時間
・交通網の発展による地域の変化・・・１時間（本時）

5　本時の目標と評価規準

（1）本時の目標

・「交通網の発展」の影響や社会の変化を、複数の資料を根拠にさまざまな立場から考察することができる。　【社会的な思考・表現・判断】

（2）評価基準B

・「交通網の発展」が与える影響や社会の変化について、資料を読み取るだけでなく、複数の立場から考察している。

6　本時における研究の重点について

（1）課題設定の工夫

・交通網の発展（本州四国連絡橋の建設）は地域にとって、利点をもたらすと捉えがちな所であるが、問題点を表す資料を示すことによって、生徒の思考を揺さぶり、課題意識を持たせたい。

（2）関わり合いの工夫

・課題に対する自分の考えやまとめをペアで交流。資料を参考に、複数の立場で、本州四国連絡橋の利点と問題点を考える場面では４人での学習活動を行い、思考を深めさせたい。

（3）まとめの工夫

・課題に対応するように記述させる。書き出しを指定するなどして、なるべく文章で書けるようにする。また、授業の中で出た「よい影響」「悪い影響」を活用し、各自に価値判断や自己決定をさせたい。

7　本時の展開

段階	学　習　活　動	指導上の留意点等
導入 8分	1　あいさつ 2　『本州四国連絡橋』の紹介、確認	○本州四国連絡橋は、四国と本州各地を結ぶ橋である事を確認。 ○本州四国連絡橋が多額の建設費をかけてまでも、多くの利点をもたらすと高い期待があったことを説明。
	3　発問 「そこまでの多額のお金をかけて、橋を何本も作る必要があると思いますか」 4　必要・不要について自分の考えを理由とともに書く。その後、ペアで交流する。	○中国・四国地方に住む人々にとって必要か不要かを考えさせる。
	5　資料「瀬戸大橋付近住民の騒音被害」	○「必要」という意見も多数を占める中、問題点もあることに注目させたい。

学習課題；本州四国連絡橋の建設は、中国・四国地方の人々にどのような影響を与えたのだろうか。

展開 37分	6　予想 『よい影響』と『悪い影響』について予想する。 7　調査① ４人グループに分かれる。 資料がそれぞれ何を示しているのか読みとる。 8　調査② 読み取った資料から「よい影響」と「悪い影響」を考える。 9　グループごとに発表を行う。その後、本州四国連絡橋の『必要・不要』を問う。 10　ストロー現象で、人口が流出し、過疎化に拍車がかかりつつある現状を確認する。 11　各グループで調査した「よい影響」と「悪い影響」、「本州四国連絡橋建設の概要」、「ストロー現象」などを判断材料にグループごとに『必要・不要』かを考える。 12　『必要・不要』であると考えた主な理由をグループごとに発表する。	○調査を始める前に、「連絡橋が必要・不要か」の立場を互いに確認させる。 ○影響を考える時に、「さまざまな立場」に立って考えられるよう支援する。 ○「中国・四国地方に住む人々」、「自分が中国・四国地方に住んでいたとしたら」という視点で考えてみる。 ○必要、不要の両面を根拠立てて考えてみることを指示。話し合いは収束させない。
終末 5分	13　課題に対するまとめを書く。ペアに自分のまとめを発表する。 ◎中国・四国地方と本州を結ぶ本州四国連絡橋は、多額の事業費をかけ、過疎対策も期待され、建設された。 ◎本州四国連絡橋の建設がもたらした影響は、 である。 14　交通網の発展には、必ず「大きな利点」もあれば、見方によっては「大小さまざまな問題点」もあることを理解する。	※岩手県でも高速道路建設がすすんでいる事も事例に出す。